

地域福祉に関する懇談会 議事録

日時：平成27年11月6日（金）13:30～15:45

場所：名古屋市公館レセプションホール 構成員：別添のとおり

開催の趣旨

- ・地域で活動する主体の代表者が一堂に会する場を設定し、**連携・協働、理解促進のきっかけ**をつくる。
- ・議論の内容を市・社協の各所管課へ周知し、施策の参考とするとともに、次期計画へも必要に応じて反映させる。
- ・**区レベルでの具体的な連携・協働**につなげる。



主な内容と議論（議題3）

○懇談会参画団体について 資料4

地域のつながりや孤立を生まない地域をどうつくっていくか

- ・資料4でもサロンのことを書いている団体が複数あるため、引き続き交流の機会をつくる**サロンの推進**をしていくべき。
- ・高齢者の見守りなど地域の福祉を必要とする人が増えているが、民生委員児童委員の活動では、**負担の集中やなり手の不足**が問題となっている。
- ・民生委員児童委員と区政協力委員をはじめとして、保健環境委員、老人クラブ、地域女性団体との**連携**に、今回から懇談会に参画した商店や企業、協同組合にも輪に加わってもらい、市レベルだけではなく、**区レベルでの活動にもつなげていくことが重要**。

○取り組み事例の報告 資料5、6

高齢者見守り登録事業における活動 名古屋市新聞販売店地域安全協議会村瀬委員

- ・高齢者夫婦です、新聞がたまっていたら気を付けてくださいというのがたった一通のアンケート回答から始まった取り組み。
- ・**一番重要なことは、早く見つけてあげること**。私たちがやれることは、ただ新聞を届けるだけではない、**見守るという真心を一緒に届ける**、新聞販売店のプライドとして一生懸命やっていきたいと思って続けている。

地域と大学の連携 名古屋学院大学社会連携センター杉山委員

- ・内閣府の調査においても個人思考よりも**社会貢献思考が非常に伸びている**。いまの学生は、社会貢献の意識が非常に高いものの、なかなか実際の行動に移せていない。地域でボランティアをするときに、まず**地域を知ってもらうところから始めることが重要**。
- ・学生さんを地域の取り組みに取り込むためのポイントとして、学生が参加することの**目的を明確に説明し、情熱**を持って接するとともに、**ホームページ**での情報発信、続く**楽しさ**も意識すること。
- ・大学に声をかけるときにポイントとして、**近くて通いやすい関係で、大学の特徴と学部を踏まえて、大学の教職員**に声をかけること。また、早い段階から**一緒に企画すること**が良い関係につながる。

『つながり・支えあおう地域福祉のすゝめ』について（議題4）

- 主催を市・市社協、共催を「地域福祉に関する懇談会」にて了承を得た。